

白虎隊の「義」伝えたい

# 白虎隊の会

b y a k k o t a i n o k a i

会誌 6号

Vol.6 2016年4月

## 白虎隊の「義」後世に



### 目 次

巻頭言 白虎隊の会 事務局長 飯沼一元	2
本年度の事業をふり返って	3
白虎隊生家跡記念碑除幕式	4
白虎隊が辿った道ツアーハイウェイ	5
白虎隊出陣劇	6
白虎隊ツアーハイウェイに参加して	7
白虎隊戦闘の地史跡めぐり	8

會

発行者 白虎隊の会

戸の口原の戦いと白虎隊	9-11
戊辰戦争白河口の戦い慰靈碑	12
会津支部だより	13
下関支部だより	14
恩愛の碑設置企画	15
長崎支部・東京支部だより	16
本部便り、会員名簿	17-19

# 卷頭言　白虎隊の会　事務局長　飯沼　一元



する運びとなつた（p15参照）。恩愛の碑を会津と長州の友好の証にしたいとの趣旨で、予算は総額400万円とのことである。

しかし、「長州のティー・ピー・

オー（TPO：Time Place Occasion）的

歴史認識が先決である」などとやり返

すが、これでは際限が無い。

発想と会津の「ならぬことはならぬ」

といふ絶対規範は相反する理念である。

時代は変わりつつあるが、お互いにそ

の歴史上の真意を理解し合う必要があ

る。その鍵は、『義』を重んじること

とに共通点を見出すことだと思う。頼

三と貞吉は、共に『義』を重んじた。

本会の願いは、『白虎隊の義』を後世

に」である。

白虎隊の会に下関支部が加わったの

は、長州と会津の友好を取り戻したい

といふ強い意向があるからである。戊

辰戦争の前には、会津の鉱山開発の指

導に長州から専門家が派遣され貴重な

交流があった（佐藤一男氏談）。貞吉

の長州滞在が「長州と会津の友好」の

架け橋の一つになつてくれれば、大変

有難いことだしそう願いたい。

下関支部では、発足以来、地道な活

動を続けてきたが、今年の10月に美祢

市内の櫛崎屋敷跡に「恩愛の碑」を設置

東日本大震災から5年になる。私は仙台出身なので、友人・知人の中には津波で亡くなつた方がかなりある。大津波の映像を見るたびに不運としか言ひようがない無力感にとらわれる。

一方、福島の場合は、原発と津波が重なつて「風評被害」という厄介な問題が発生した。原発は天災ではなく、人災である。原発が無ければ、津波と地震の被害で終わっていたはずで、復旧・復興も違つた形で進行したであろう。会津は原発から100kmも離れており、地震と放射線被害は僅かだつたが、風評被害が観光産業を直撃した。飯盛山は修学旅行客で毎年賑わつていたが、来客が一気に4分の1に激減したといふ。

白虎隊の会を設立したのは震災の1年前だつた。

直ぐに、会員に会津義援金を呼び掛け、集まつた募金を、会津若松市青少年育成および原発被災で会津に集団避難した福島県大熊町および楓葉町にお

渡しした。

この時には、山口県の萩市から支援物質を満載した10トントラックが会津に横付けされ、市長が感謝の礼を述べた。また、下関からは名物のふぐトラックが福島市の体育館に乗り入れ、大歓迎されたといふ。

会津と長州のわだかまりはなかなか消えない。両者の価値観は対極と言つてもよい程の違いがある。長州は「機を見るに敏、臨機応変、目的のために手段を選ばず、なんもあり、実践主義」に近く、会津は「おつとり、愚直、義にこだわる、ならぬことはならぬ、精神主義」に近い。ましてや、戊辰の歴史認識には、いまだに、大きな乖離がある。



美祢市櫛崎屋敷跡から会津方向を見る

# 本年度の事業をふり返って

— 事務局長 飯沼一元

本会の目的は「白虎隊の“義”」を後世に伝えることです。そのためには、史跡を残すのが一番良いと考えています。戊辰戦争後、148年になりますが、白虎隊に関して、まだ、知られていないことが多いのです。

昨年度（2014年）は会津若松市強清水に「白虎隊戦闘の地」説明版を4か所に設置しました。

白虎隊が西軍と戦闘したのはどこか？ 戰いはどんな状況だったのか？ を分かりやすく示すためです。

いろいろな説があり、調査に5年を要しましたが、明治30年に設置された「白虎隊奮戦の地」とは1kmほど西寄りだったことが判明したので実行に移しました。その結果、現地にお住まいの方々も喜んでおられるし、ネット書込みを見ると口コミも広がっていることが分かります。

本年度は若松市内に「白虎隊士生家跡碑」を設置することにしました。このアイデアは研究担当役員の石田明夫さんから出されたものでした。現在、当時の会津藩士屋敷の痕跡は殆ど残っていません。鶴ヶ城北出丸近くに、西郷邸跡と内藤邸跡がありますが、白虎隊士

生家跡はありません。

会津戊辰戦争において、召集令状を受けた白虎隊士が出陣し、飯盛山で自刃するまでは僅か1日の出来事でした。血氣盛んな若者がたつた一日で死に至る悲劇はウエストサイド物語も同じです。

白虎隊士はどこでどのように召集されたのか、どんな気持ちで出陣したのか？

以下ページに内容を紹介します。

本事業を通して、各種の白虎隊ツアーナどが企画されることで、地域づくりに貢献したいと考え、次年度以降も継続したいと考えています。

本年は、召集令状を受けた白虎隊士の生家跡に石碑を設置し、これを起点として白虎隊ツアーナ（大人向けおよび子供向け）を企画し、召集、出陣、戦闘、自刃に至る「白虎隊が辿った道」を体験させ、ならびに「ならぬことはならぬ」の会津魂・白虎隊の“義”を後世に伝えることを目的としました。

このため、白虎隊の会としては初めて福島県に助成事業を申請しました。地域創生総合支援事業（サポート事業）とは、地域を元気にするために、住民が主役となり、民間団体や市町村等とともに連携して行う魅力ある地域づくりを支援する事業となっています。白

虎隊の会の事業が、公的な視点から地域創生に叶うものかどうかが問われることになります。

助成金申請にはいろいろな制約があり、苦労しました。最も重視されたのが、「ハードではなくソフト」でした。石碑を建てるだけではダメということです。そこで、会津地域で活躍中の「劇団びくひやらら」にお願いして、白虎隊出陣の路上劇を上演することになりました。そしてようやく、助成事業に「認定」されました。



河北新報2015年9月27日掲載記事

# 白虎隊士生家跡碑除幕式

会津支部会員 森川敬寿

明治元年9月22日（陰曆）会津藩は戊辰戦争に利非ず、この日、若松城（鶴ヶ城）が開城になりました。それから9月22日は会津にとって特別な日になりました。

白虎隊の会の平成27年度の目標は、飯盛山で自刃した白虎隊士の生家跡に石碑を建てることでした。一年目は、白虎士中2番隊飯沼貞吉邸と同じく白虎士中2番隊教導篠田儀三郎邸とし、夏頃より準備を進めて来ましたが、その除幕式と白虎隊ツアーハウスが平成27年9月22日に行われました。

除幕式直後には、劇団ぴりひやららの皆様に臨場感あふれる路上劇を演じて頂き、この場を大いに盛り上げて頂きました。

この日は、快晴に恵まれ、はじめに、飯沼家ご親族の皆様で飯沼貞吉生家跡（現会津若松市西栄町1の82）（有）きくや生花店様に建てた石碑の除幕式を行い、篠田儀三郎生家跡（現会津若松市米代1の4の30）秋山ユアビス建設（株）様に向かいました。

この篠田家跡から道路を挟んだ向かい側には、現在、会津若松市立謹教小学校が建っています。この学校の庭には、二人が通つてい

た藩校日新館の池に掛けられていた石橋が移設されていますし、学校内視聴覚室には鶴ヶ城の門扉で作られたと云う扁額が飾られています。

午後2時、いよいよ白虎隊の会のメンバーや来賓の皆様が集まり『白虎隊士生家跡碑除幕式』が始まり、最初に白虎隊の会飯沼一元事務局長より挨拶とともに白虎隊士生家跡に石碑を建てるに至った経緯や路上劇を企画した事などを話していただきました。

続いて、石碑を建てる場所を提供して下さった秋山ユアビス建設株式会社社長 秋山幸広様、会津若松市副市長 田辺賢行様、会津若松市議会議長 目黒章三郎様、白虎隊の会会津支部長 真部正美様始め7人の皆様で除幕の綱を引いて頂きました。

ご来賓の会津若松市副市長田辺賢行様よりご挨拶を頂戴しました。続いて劇団ぴりひやらら團長近藤直宣さんのナレーションによる「白虎隊出陣劇第1幕」を劇団の皆様に碑の前で演じて頂きました。

ここでは、先づ藩からの招集を受けた白虎隊士の様子が演じられましたが、演技者の表

情が真に迫つており、150年前の世界に居る様に錯覚してしまいました。

この日は福島テレビも取材に来ており、夕方のニュース番組で放映されました。若松市内で会津藩士の碑が建つのは初めてとのことでした。



除幕式参加者



回文章を読み上げる劇団のシーン

# 白虎隊が辿った道ツアーアー

会津支部会員 森川敬寿

除幕式の後は全員で記念写真を撮り、バスで鶴ヶ城に向かいました。

鶴ヶ城本丸に入る正門が鉄門（くろがねもん）ですが、この門は籠城戦の時、新政府軍の小田山からの砲撃による着弾の死角になつた場所で藩主の居場所になつた処です。門の外側、天守閣の西側の場所が「白虎隊出陣劇第2幕」の舞台になりました。

この場面は藩主より白虎隊が前線への出撃命令を受ける所です。隊士たちがやっと会津藩のお役に立てる勇んで命令を受ける場面ですが、当時、16～17歳の少年たちが藩のために、家族のために勇躍して出陣して行つたのかと思うと胸が熱くなる思いでした。

白虎隊の当時の足跡を辿るツアーアーも時間の都合でほとんどがバスでの移動となりましたが、車中では会津古城研究会会长（当会研究担当役員）の石田明夫氏より当時の色々な話を聞くことができました。

次は会津藩9代藩主松平容保公の藩士激励と前線視察の護衛として白虎士中1番隊と2番隊合計約70名が向かつた飯盛山近くの滝澤本陣です。

本陣に着いた藩主に「敵近し」との報告があり、藩主は士中1番隊の護衛のもと城へ引き返すことになり、士中2番隊37名は戸ノ口原の前線に向かうことになった場所です。

次は戸の口原から約2kmほど手前の強清水です。ここからは、平成26年に白虎隊の会で建てた「白虎隊奮戦の地」説明版の前で新四郎堀～菰土山～戸ノ口原古戦場跡へと白虎隊の辿った経緯を石田明夫氏から説明を受けました。

その後、バスで飯盛山へ戻り、隊士達がくぐつた洞門から自刃の地まで歩き、石田明夫氏より説明を受け、当時の少年達の苦労と心情とに思いを馳せ一旦解散となりました。バツツアーアーとはいえ、白虎隊士の出陣から自刃に至るコースを短時間で巡るのはかなり大変でした

その後、希望者は場所を若松市内のねぼけ茶屋（明治になつて飯沼家が住んだ旧屋敷跡）に移して懇親会を開きました。今回は京都支部の司太夫の踊りや飯沼貞吉のひ孫に当たる子供達の参加もあり、大いに盛り上がりました。



ツアーアー終了後の懇親会(ねぼけ茶屋)



鉄門での白虎隊出陣劇

今回のツアーアーは約30名程の人数でしたが、劇団ぴうひやららの皆さんによる路上劇などで盛り上がり、目標通り2基の生家跡碑も建てることが出来ました。本年3月には子供と地元の皆さんで白虎隊のバスツアーアーを実施しました。

# 白虎隊出陣劇

劇団びーひやらら 近藤 直宣

## 劇団びーひやららとは

平成元年に旗揚げ、以降年1回の定期公演を始め、不定期公演などの演劇活動を行なっている。

福島県内で最大規模の団員数を誇る。現在在籍団員数は40名をこえる。

## 白虎隊出陣劇を依頼されて

当初は設備もなにもない、まして屋根すら無い状況で何か出来るのであろうかと思つたが、普段では感じられ無い何かを期待して承諾した。

## 脚本作成

大沼高校演劇部顧問、佐藤雅通氏に依頼。史実関係資料は飯沼一元氏より入手。

## 路上劇の問題点

設備の不足が最大の問題であり、雜音、転換の難しさにもなやまされた。

機器の移動手段も確立されておらず、今後の課題点であると思われる。

## 感想・今後

技術的な面で言えば、出来れば転換部分等は照明を利用出来る環境が欲しかった。

ないかという期待感も得ることが出来る寸劇だつたので、以降機会が有れば更に良いものにしたいと思う。

## 稽古

期間が限られていた為、通常稽古の他に稽古日を設け、団員に自主練習を促し進めた。

短編ではあつたが、当時の時代背景は元より、先人の人格設定や感情に寄り添う事に主眼を置いて稽古に励んだ。

## 除幕式当日

縁ある人々の観劇だけあって、寸劇を見るお客様と言うよりも身内のような温かい観劇姿勢がとても有り難かった。



白虎隊召集通知を読みあげる劇団

# 寄稿1 白虎隊ツアーパーに参加して —会員 星野紀子（大田区在住）

2015年9月22日、連休を取つて念願の会主催白虎隊ツアーパーに参加させて頂いた。若松は史跡巡りで度々訪れているが、私の中での「新しい発見」が数多くあった。

除幕式を行つた篠田儀三郎生家跡地は、これまで何度もお会いしたことのある方が経営される、秋山建設の所有地であつたことに大変驚いた。

生家跡地と鶴ヶ城の鉄門（くろがねもん）の前で、劇団による出陣劇の奉納。

「頭上で破裂するかと思うと、脚下に砂塵を揚げる、瓦は落つる、石は跳ぶ、城中はまるで濛々たる硝煙で殆どむせぶ様な有様」新島八重が手記に記した情景。籠城戦で砲弾から身を守る為、一番安全とされた鉄門に松平容保公らがいた様子を思う。

強清水にある白虎隊が潜んだ「新四郎堀」は今でもはつきりと窪みが見て取れる。道の一部は大正に出来た新道で、現在は供養山といわれる小山（戦死した会津藩士の墓あり）の右側を道が通るが、当時は小山の左側を旧道が通つていたことを教えて頂いた。旧道は多くの草木、笹で覆われている。

車窓から大河ドラマ「八重の桜」でも登場した会津藩が訓練をした場所の土壘跡地を眺める。随所に痕跡が残るのを実感する。

戸ノ口原には大きな白い標柱「白虎隊奮戦の地」の脇に大きな碑「九十八士慰靈碑」がある。ここで白虎隊が戦つたと勘違にしてしまることが多い。私も当初は同じだった。しかし白虎隊が実際に戦つたのは、石碑から500mほど離れた場所にある見晴らしの良い平地と教えて頂いた。隊士飯沼貞吉が晩年絵師に描かせた白虎隊奮戦の絵図を掲載した会設置の案内板をしながら説明を受ける。

溝に伏せ、敵が100mほどに近づいた時、篠田儀三郎の「撃て」の合図で戦闘が始まつた。案内板の前の道は西軍が陣を張つた旧道。その先に白虎隊の陣取る様子が描かれている。指揮を奮つているのが篠田儀三郎。隊士たちは皆洋装だった。よくテレビで描かれる袴姿ではない。広い野原が広がり身を隠す場所がないことが現地へ行くとよくわかる。更に臨場感ある当時の様子に迫る思いがした。

退却する白虎隊たちは赤井の地蔵の前にある窪みに水を入れ、各自が持つていておにぎ



筆者 戦闘の地説明板の前で

りを入れて食べたという。現在の地蔵は道路建設後に出来た新しい物だが、白虎隊はその裏側の山道を登り、背炙山から更に若松城下を目指した。赤井は初めて訪れた場所だつた。白虎隊が潜つた飯盛山の洞門から南に延びる疎水沿いに、昔は白刃の松の木が二本あつたが現在は枯れてしまつたとのこと。飯盛山を訪れる度に、なぜ戊辰戦争が起きたのかを考える。歴史の事実を知ることは、現代に活かす道標となる。

会津藩士たちが命を懸けた激戦の地、白虎隊奮戦の地、隊士たちの墓、飯沼貞吉の墓を、直系のご子孫や歴史家石田明夫氏、会の皆さんと訪れることは、会津藩の歴史をさらに深く知る上でとても貴重な体験となつた。また是非参加し更に理解を深めたい。

# 白虎隊戦闘の地史跡めぐり

研究担当役員 石田明夫

平成27年度、本会事業として、白虎隊士の生家跡への標柱設置事業の一環として、9月22日、火曜日、午後、白虎隊士の篠田儀三郎と飯沼貞吉の生家跡に石碑が建立され、会津若松市副市長、市議会議長らの出席により除幕式が行なわれました。式典後、戸ノ口原の古戦場、飯盛山などゆかりの地をマイクロバスで回るツアーを開催しました。

10月17日、土曜日には、会津若松市湊町の住民で組織する湊地区地域活性化協議会主催により、石田の案内と飯沼一元さんの講話による「歴史講演ウォーキング」が開催されました。天気も良く、30数名の参加がありました。湊町に所在する戸ノ口原の古戦場に残る会津藩が構築し白虎隊がいた強清水の弧土山と姥山の陣地跡、実際に戦った奮戦の地、西軍の陣地跡がある県立会津レクリエーション公園内の陣地跡を回り、最後に県立会津レクリエーション公園内にある管理棟で飯沼さんの講演を聞きました。参加者は、白虎がいかに戦いどのような思いで自刃したかを学習しました。

3月19日土曜日、白虎隊ゆかりの地を巡る「親子で訪ねる。白虎隊の精神と痕跡」と題

し、会津若松市北公民館の協力を17名の参加を得て白虎隊ツアーを開催しました。飯沼貞吉（貞雄）氏の弟、関弥氏は、若松市に住んでいた明治時代、福島県北会津郡高野村（現在の会津若松市）、現在の会津若松市立永和小学校前身の小学校長に就任していたことがあります。その時、2代（明治20年10月25日から明治24年2月4日）校長として、当時は上高野尋常小学校という名称、明治22年からは栄和尋常小学校といふ名称に変化し、就任していました。さらには、6代目（明治29年4月30日から明治30年4月14日）として、高野町北組合立永和尋常小学校に名称が変わり明治29年から再度校長に就任していました。つまり、2回永和小学校校長時代があつたのです。その後、関弥氏は松平容保公に呼ばれ、

吉（貞雄）氏の弟、関弥氏は、若松市に住んでいた明治時代、福島県北会津郡高野村（現在の会津若松市）、現在の会津若松市立永和小学校前身の小学校長に就任していたことがあります。その時、2代（明治20年10月25日から明治24年2月4日）校長として、当時は上高野尋常小学校という名称、明治22年からは栄和尋常小学校といふ名称に変化し、就任していました。さらには、6代目（明治29年4月30日から明治30年4月14日）として、高野町北組合立永和尋常小学校に名称が変わり明治29年から再度校長に就任していました。つまり、2回永和小学校校長時代があつたのです。その後、関弥氏は松平容保公に呼ばれ、

福島民報（県内版）2015年（平成27年）10月19日（月曜日）

白虎隊の戦地歩く

初の歴史ウォーキング 若松

戊辰戦争で白虎隊と一緒に戦った地を、湊地区地域活性化協議会の主催、白虎隊の会の共催、飯盛山で自ら蘇生した白虎隊士の孫・飯沼一元さんや東京在住の歴史ファンら約30人が参加した。飯沼さんが案内し、一八六八年が記された。新政府軍が戦った地を、議会の主催、白虎隊の会の共催、飯盛山で自ら蘇生した白虎隊士の孫・飯沼一元さんや東京在住の歴史ファンら約30人が参加した。飯沼さんはいざれもこれまで一般には知られておりません。白虎隊を思う敵とされた理不尽に感憤深い大事な歴史遺産として全国に発表した。歴史の地を広く明らかにして会津武士の『義』を伝えると語った。

小林昭二 協議会長

（私はいざれもこれまで一般には知られておりません。白虎隊を思う敵とされた理不尽に感憤深い大事な歴史遺産として全国に発表した。歴史の地を広く明らかにして会津武士の『義』を伝えると語った。）

白虎隊士らが使ったとみられる飯沼さん（手前）

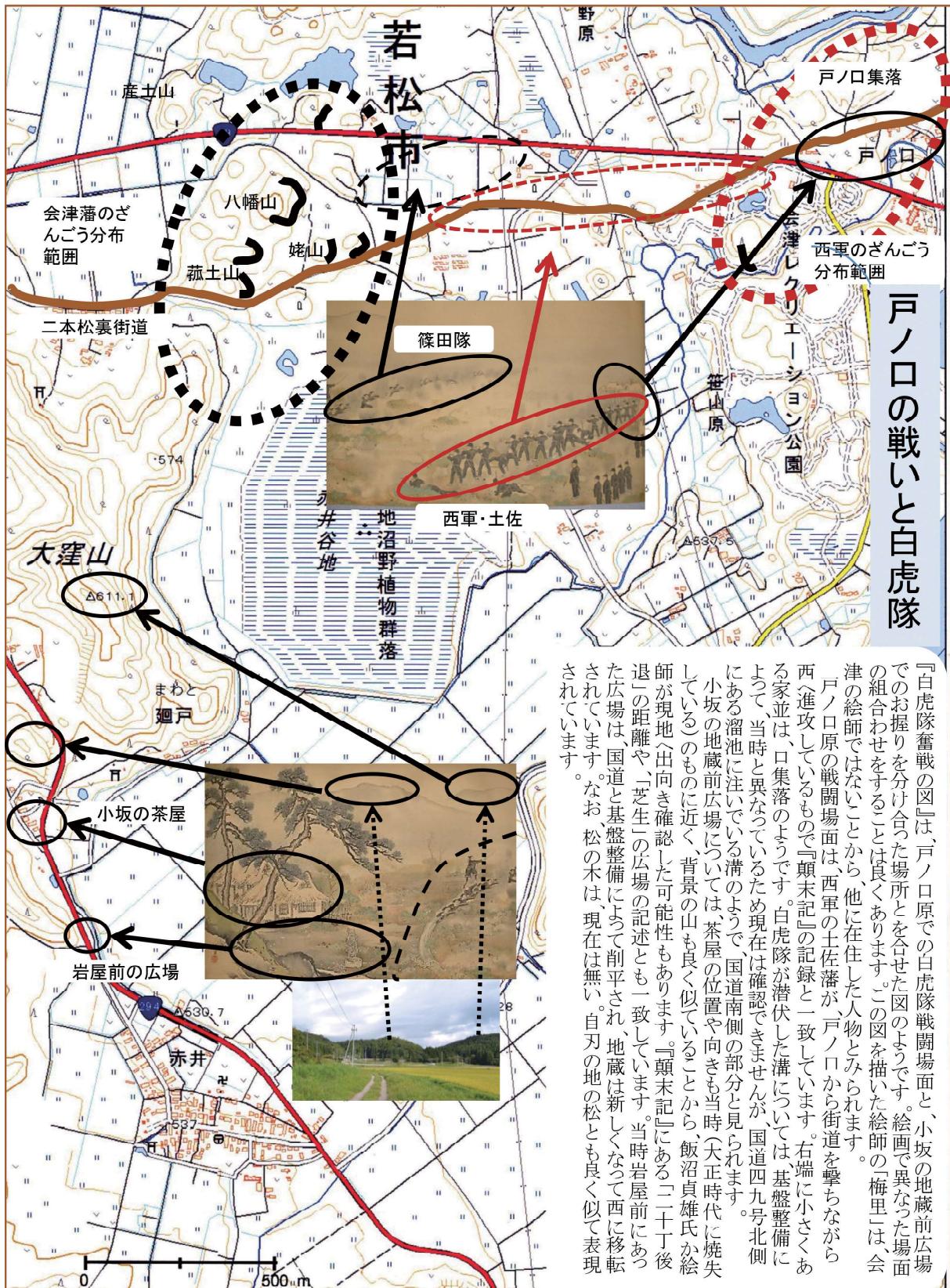
からほどほど西のササに覆われた白虎隊の塹壕、双方が激しい戦闘を繰り広げたとみられる草原を巡った。塹壕は長さ十数㍍から五十㍍ほどで、深さ八十㌢ほどで、敵から身を隠すのに使つたとみられる。白虎隊は戦いに傷つき、飯盛山に退いて自刃しました。

（私はいざれもこれまで一般には知られておりません。白虎隊を思う敵とされた理不尽に感憤深い大事な歴史遺産として全国に発表した。歴史の地を広く明らかにして会津武士の『義』を伝えると語った。）

# 白虎隊戸ノ口原の戦い全行動

白虎隊の会研究担当役員 石田明夫

## 戸ノ口の戦いと白虎隊



『白虎隊奮戦の図』は、戸ノ口原での白虎隊戦闘場面と、小坂の地蔵前広場でのお握りを分け合った場所とを合せた図のようです。絵画で異なった場面の組合わせをすることは良くあります。この図を描いた絵師の「梅里」は、会津の絵師ではないことから、他に在住した人物とみられます。戸ノ口原の戦闘場面は、西軍の土佐藩が、戸ノ口から街道を撃ちながら西へ進攻しているもので『顛末記』の記録と一致しています。右端に小さくある家並は、口集落のようです。白虎隊が潜伏した溝については、基盤整備によって、当時と異なるため現在は確認できませんが、国道四九号北側にある溜池に注いでいる溝のようで、国道南側の部分と見られます。小坂の地蔵前広場については、茶屋の位置や向きも当時（大正時代に焼失している）のものに近く、背景の山も良く似ていることから、飯沼貞雄氏が絵師が現地へ出向き確認した可能性もあります。『顛末記』にある「二十丁後退」の距離や、「芝生」の広場の記述とも一致しています。当時岩屋前にあった広場は、国道と基盤整備によって削除され、地蔵は新しくなって西に移転されています。なお、松の木は、現在は無い。自刃の地の松とも良く似て表現されています。

虎隊は、菰土山の陣を敢死隊や新選組に譲り、十丁（奮戦の地先約

8月22日の行動  
昼12時、白虎隊は、容保公に従い城を出て37人が滝沢本陣に行きます。半隊が先に行き、残りも合流。滝沢峠舟石茶屋に携帯品を預け駆け足で進みます。夕暮れ、強清水先の小山（菰土山）に登り胸壁（ざんごう）を築きます。午後4時頃、既に薩摩兵（川村隊）が十六橋を渡り、胸

200メートル）進むと五丁（約500メートル）隔てた先には数千人（西軍）がいました。

午後4時頃、旧幕府兵15人、敢死隊30人が槍や和銃で突撃するも撃たれました。会津藩は秋雨の中、夜を徹して篝火を焚き胸壁を築き白虎隊は、戸ノ口原に野陣（奮戦地と菰土山の間）します。前日、敢死隊と奇勝隊約120人は、 笹山原（ 笹山原レク公園南）で西軍と対峙します。白虎隊長の日向内記は、

一ノ瀬要人の命で、夜10時頃、上強清水の荒

井宅で小池繁次郎、小原信之助、新選組の中島登らと作戦会議をした後、隊に戻ることが出来ませんでした。

## 8月23日の行動

白虎隊は『顛末記』によるとも討死を覚悟し、寝ることなく団欒し、腰の食物を食べ明け方までいた。朝5時頃、隊長が戻らなかつたので、篠田儀三郎が号令し、戸ノ口をめざし進むと銃声が近くに聞こえました。戸ノ口原は障壁が無いので、水の無い溝に隠れます。敵は、前日戸ノ口の味方（遊撃隊・敢死隊・奇正隊）を打ち破り、銃を撃ちながら街道を直ぐ進んできた。幅6尺、高さ3尺の溝内

から、敵が100メートルに近づいた時「撃て」と篠田が刀を振りかざし号令しました。

山内隊は、敵を挟み撃ちしようと、赤井谷

地西の新四郎堀に回つて側射したが効果は無かつたのです。薄暗い頃（六時頃）原田隊七人は、新四郎堀より狙撃したが効果は無かつた。山内隊は、退軍の命により新四郎堀に身を隠していました。原田隊は、迂回し原街道に出て、沓掛坂に向かうと、坂下には敵兵がいて乱射するため東に戻り、赤井山を登つたのです。

篠田隊は、『顛末記』によると、道に迷い滝沢不動から滝沢峠入口近くに出ると、敵に遭遇し、合言葉を掛けると、いきなり狙撃され、永瀬雄次が撃たれました。負傷者がいたことから飯盛山山頂へ行くことを諦め、戸

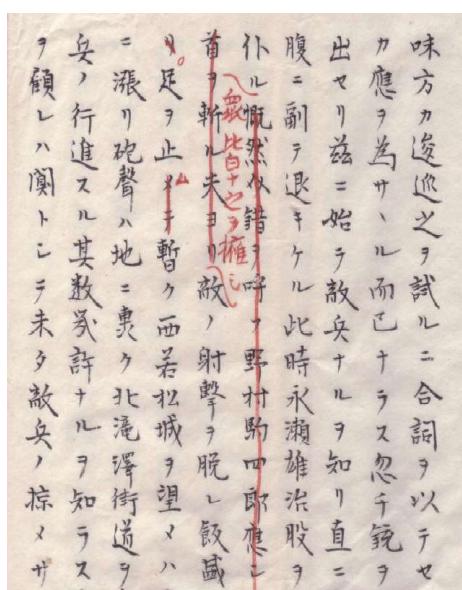
ノ口堰洞門に入つたのです。洞門を出ると、まで退却した。敢死隊のいた宿（上強清水）まで戻ると、人影無く戦死者がそこにもここにもあつたのです。敵にじゅうりんされた一

寒村の戦敗の痛ましい光景は、恨みを深くし

ました。二〇丁（約2キロ）退却し、ようやく敵から逃れたが、銃声は遠くに聞こえました。

そこには、見上げるほど地蔵があり芝生の広場で、点呼すると16人になっていました。そこで、お握りを分け合つて食べました。

別行動の酒井峰治は、強清水から穴切坂を下り西の山道に入ると、山内小隊長が追いかけ来て、滝沢峠の沓掛に向かおうとすると三



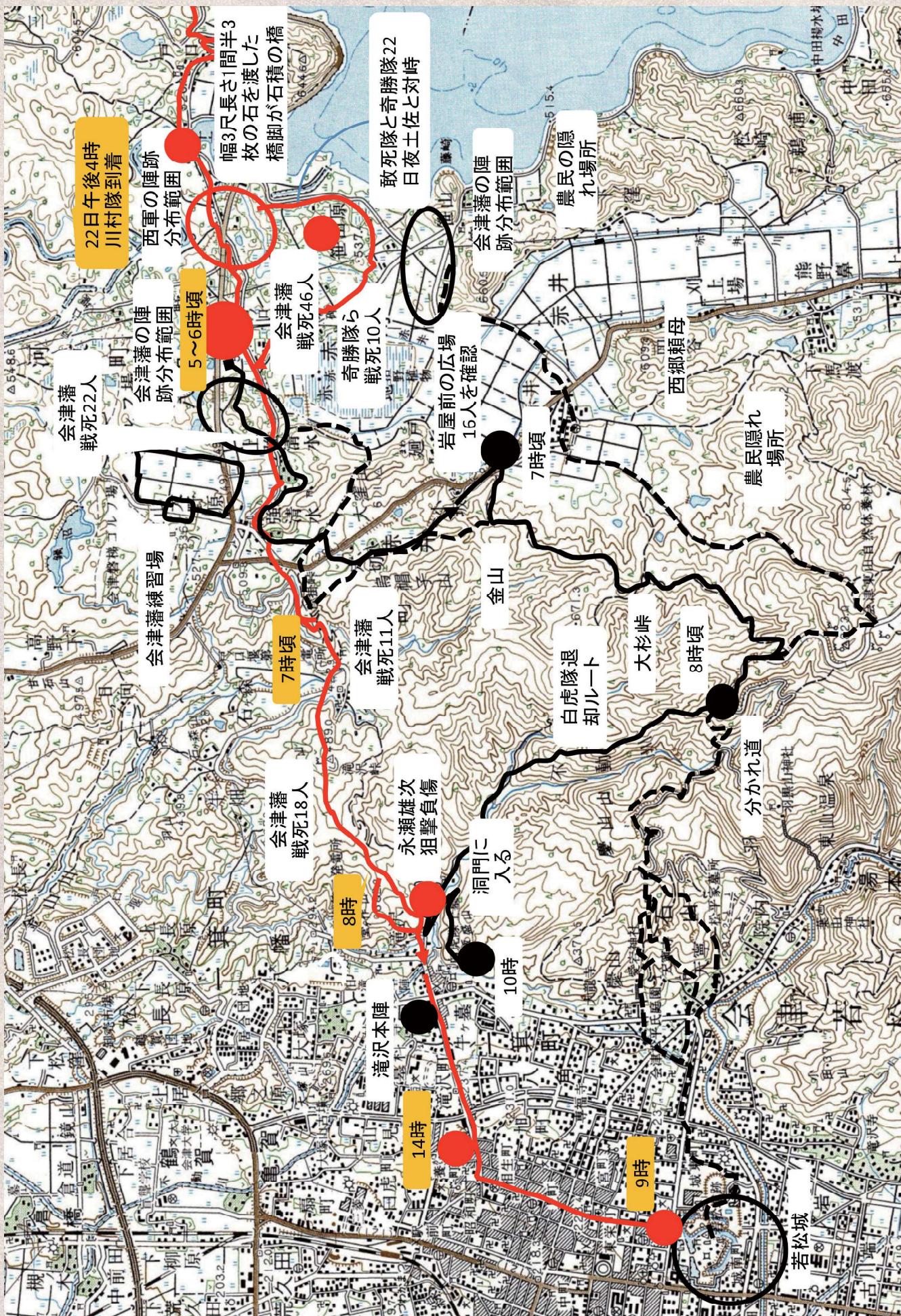
白虎隊顛末記永瀬雄次記載部分

佐川官兵衛は、『戊辰戦争見聞略記』によると前日、容保校公と酒を酌交わし、戸ノ口へは戻らず、朝、滝沢峠の下にいて、刀を振りかざし「この処から後ろへ退いてはならぬ」と激を飛ばしますが、弾丸がヒュヒュと頭上をかすめ飛ぶようになり退却しました。

篠田隊は、『顛末記』によると、道に迷い滝沢不動から滝沢峠入口近くに出ると、敵に遭遇し、合言葉を掛けると、いきなり狙撃され、永瀬雄次が撃たれました。負傷者がいたことから飯盛山山頂へ行くことを諦め、戸

ノ口堰洞門に入つたのです。洞門を出ると、弁天堂で休息し、上を目指し、滝沢の墓地より上にある自刃の地にたどりついたのは、午前10時頃でした。

# 白虎隊退却図



# 白河口 戊辰之碑

## 役員 安司弘子

平成二十七年八月二十九日。福島県白河市  
の稻荷山で「戊辰戦争白河口の戦い記念碑」  
の除幕式が行われました。



そば降る雨の中の除幕式には、長崎や萩・岐阜など遠方からも。参加者は愚痴もこぼさず、「地下に眠る人たちの嬉し涙だ」と…

指揮を採る陣地となり、奥州街道を進撃して  
来る西軍と対峙。この日の死者は約七百名。  
戊辰戦争全戦闘のなかで、戦死者数が最も多  
い日でした。



右側自然石の記念碑には「白河口 戊辰の碑」の題字。  
左側の碑には表に戦死者の銘、裏に記念碑の趣旨と  
寄付者のお名前。

このご芳志をいたしました。心温まるエピ  
ソードもいくつもありました。  
ここに、土地をご寄贈下さった故堀田節夫  
様、題字を刻むご愛蔵の自然石を提供して下  
さった和知繁蔵様、そして、故田村篤志様ほ  
かの皆々様に心から感謝を申し上げたく存じ  
ます。

＊＊多くの方がこの場所に佇み、当時の  
ことに想いを馳せて下さいますように＊＊



ここは旧奥州街道（国道249号）に沿う  
小高い丘で、旧藩時代は九番町関門のすぐ近く  
でした。

幕末の白河藩主で幕府老中の阿部正外は兵  
庫開港問題で棚倉に転封されました。  
白河は藩が存在しないまま戊辰戦争を迎  
え戦場となりました。

ですから、この白河は、敵対する東軍西軍  
を問わずに全戦死者のお名前をご一緒に刻ん  
で鎮魂するのに相応しい土地なのです。

白河口は、会津藩の白河口総督西郷頼母が  
慶応四年五月一日。

稻荷山は、会津藩の白河口総督西郷頼母が

建立するにあたり、全国の皆様からたくさ  
り広げています。

# 会津支部報告

## 支部長 真部正美

### ①会津の話題

平成27年の会津観光は、修学旅行の生徒さん達が戻ってきた年がありました。

平成23年の東日本大震災以降、会津へ訪れる学習旅行は激減してしまい、会津の観光が終焉を迎えたかと思われました。しかしながら、その後は全国的な復興ムードにより会津

を訪れるお客様は少しずつではありますが、増加傾向に転じました。また、平成25年のNHK大河ドラマ『八重の桜』の放映をきっかけに多くの観光客の皆様が会津へ足を運んで頂きました。そんな中でも修学旅行の数は増えることはありませんでした。

震災から間もなく5年を迎えるようになって今まで来られていた学校はもとより、新規に会津へお越し頂くようになられた学校もあるなど好転の兆しは見られるようになつて参りました。

修学旅行生がもつとも多く訪れるようになれば、本当の意味での会津の観光が復活したと言えるでしょう。それまでには、もう少し時間が、掛ると思います。

また、戊辰戦争終決150年が平成30年に控えておりますので、白虎隊が更に注目を浴びることは必然ですので、再びメディアに取り上げて頂けるよう働きかけしたいと思います。

### ②寄贈品のその後について

白虎隊の会寄贈の平成23年に建てられた飯盛山白虎隊士自刃の地『説明板』と平成24年に白虎隊士が潜った弁天洞門側に設置された「白虎隊が辿った道」彫刻石は、今現在、観光客の皆様は、必ず見られています。拝見された方も、白虎隊士の行動を知ることが出来ます。



飯盛山白虎隊自刃の地に設置された自刃理由の説明版(2011年9月)

て分り易いとの声が多く、好評を頂いています。訪れた方々全員に直に説明することは出来ないので、大変感謝しております。



飯盛山戸の口同門出口設置された説明版と白虎隊が辿った道彫刻石(2012年9月)

# 下関支部だより

私たち下関支部は、平成二七年の一月にご逝去された元ドイツの大統領ワイツゼッカーハー氏の残された名言の一つ『過去に日を閉ざす者は、現在にも盲目である。』を噛みしめながら活動をしてきました。今年度の活動の中心は、美祢市小杉の樋崎屋敷に、頼三・貞吉恩愛の碑建立にむけた具体的な活動を進めることでしたが、これについては別頁に掲載します。

## 【活動報告】

①四月十四日 高杉晋作の眠る東行庵で、東行忌の前に山縣有朋公の銅像除幕式が行われた。

②六月十三日 会津間諜神戸岩蔵墓清掃と下関支部役員会の開催

③七月十八日 禁門の変百五十年祭（美祢市）に参加

④七月二六日 下関応援団の主催「福島県伊達市の子供たちとの交流」に参加。保護者の皆様に「高見フサロ伝」をお話する。

⑤八月一日 神戸岩蔵墓参・夏期研修会と懇親会（会津出身の高橋海佐を囲んで）

⑥八月七日 山口県高校社会科研修会において、飯沼一元氏講演（山口県立美祢青嶺高校）

⑦十月三一日 下関支部研修旅行（徳地、柳井）十二名参加

⑧十一月十九日 下関東ロータリークラブで卓話「会津・長州の友好を考える①」支部長

⑨十一月二三日 伊達市長下関市にお礼訪問（支部長参加）

⑩十一月二六日 下関東ロータリークラブ卓話「会津・長州の友好を考える②」支部長

⑪一二月一七日 本屋川中二年（立志に向けて）講話「晋作の志」支部長

⑫一月三〇日 支部役員会（総会にむけて

⑬二月一七日 下関市東ライオンズ卓話「長州の中の会津」支部長

⑭二月二六日 下問支部総会

昨年度は、「会津白河慰靈の旅」を通して歴史を観る新たな視点を学びました。今年度は、再び足元を見つめ直すということで、長州の「幕末・明治」に光を当てました。



下関東ライオンズクラブ例会・支部長卓話



研修旅行・徳地、奇兵隊と僧月性の足跡を訪ねる 旅行・徳寺奇兵隊と僧月性の足跡を訪ねる

長州では、西側の長門部だけでなく東側の周防部においても、有為の人材を数多く輩出したことが改めてよくわかりました。  
あと二年で明治一五〇年、戊辰戦争一五〇年です。この歴史の節目をどう迎えるか：：私たちの生き方が問われているのではないか。どうでしょうか。

# 「恩愛の碑」建立にむけて

恩愛の碑実行委員会副会長 吉井克也

かりの碑準備会を立ち上げることについて  
同意を得る。

## 一 はじめに

白虎隊士飯沼貞吉直系の孫飯沼一元氏が祖父の足跡を求めて、山口県美祢市東厚保小杉を訪問されたのは、平成二〇年九月二一日のことでした。以後、私の母の実家である高見家で語り伝えた高見フサロ伝（長州藩士権崎頼三が、飯盛山で自刃に失敗し生きる意味を見失っていた飯沼貞吉を、美祢の知行地に連れ帰り二年間養育する。やがて貞吉は回生し、電信技術者としてわが国の近代化に貢献する。…が、多くの方々のご尽力により、徐々に世の中に広まつていきました。

そして、ついに私たち下関支部の悲願である恩愛の碑が、今年の十月十五日に除幕される運びになりました。

## 二 経緯

①平成二〇年一〇月二一日

飯沼一元氏山口県に初来県。美祢市櫛崎屋敷で高見フサ子孫と対面。祖父貞吉がこの地で養育されたことを確定される。

②平成二一年三月二一日

飯沼一元氏が会津の歴史家や作家の皆さんと美祢に一度目の訪問。ここで祖父貞吉が

この地で養育されたことを断定される。その後、現地でも美祢市立図書で開催された歴史懇談会の席でも、「貞吉ゆかりの記念碑」を建立したい旨を述べられ、高見家をはじめ地元関係者もこの思いを好意的に受け止める。

③平成二一年一〇月一五日

白虎隊の会下関支部の発足。以後、様々な活動に取り組む。

○会津間諜神戸岩蔵墓整備と慰靈

○長府万骨塔慰靈祭に参加し、白虎隊士一九士と広沢安任等の慰靈。また、山川健次郎の靈石安置にも大いに貢献

○飯沼一元氏出版記念会開催

○県内各地や長崎・阿蘇、会津・白河をを訪問し、幕末・明治維新期の歴史認識を深める。等々：現在に至る。

④平成二五年一〇月一九日

下問で「飯沼貞吉の回生」「あずさ弓の如く」出版記念会を開催。その前に飯沼一元氏を美祢にご案内し、美祢市教育長をはじめ市役所幹部・市民有志と懇談の今後、美祢市有志と白虎隊の会下関支部が、貞吉ゆ

⑤平成二六年九月二八日

NNNNドキュメント一四「会津白虎隊の残影」思いは時を越えて」を全国ネットで放映。これに先立ち、平成二五年には、KRY山口放送が「熱血テレビ」で四回に渡つて、権崎頼三と飯沼貞吉の特集を組む。

⑥平成二七年二月一日

京都で権崎健志氏と吉井支部長が懇談し恩愛の碑建立の了承と今後の協力を得る。ここで全ての環境が整う。

⑦平成二七年四月二八日

立ち上げ準備会で、今後の活動の骨子を作り、以後五回の実行委員会を重ねて計画は順調に進んでいる。多くの方からご支援を賜り、寄付も目標額に達した。

## 三 おわりに

「長州藩士権崎頼三・白虎隊士飯沼貞吉恩愛の碑」建立への多くのご支援は、会津長州の和解と友好を願う方が沢山おられることが証です。明治一五〇年・戊辰戦争一五〇年を意義ある年として迎えるために、この事業を立派にやり遂げたいと実行委員一同決意しています。

# 長崎支部だより

## 長崎支部長 工藤新一

長崎支部は六月に白虎隊の会長崎支部を母体にした「長崎會津会」の立ち上げと木下健副会長の長崎総合科学大学学長就任を記念して講演会を開催しました。木下副会長には長崎會津会の顧問をお願いし、会長には当支部顧問である長崎歴史文化博物館の大堀館長、副会長には高久副支部長が就任しました。会の目的は幕末・明治期に長崎で活躍した会津出身者の功績を広く長崎県内外に紹介するとともに、会津と長崎のかけ橋となることで、てはじめに「長崎と会津をつなぐ絆」と題して、私が「長崎の中の会津」を、木下副会長に「私が聞いている山川家の人々」を講演していただきました。

九月には私が「白虎隊ツアーアー」に参加し、飯沼事務局長はじめ参加した白虎隊の会の皆様には大変お世話になりました。

十二月には、長崎會津会との共催で「長崎と会津をつなぐ絆2」の講演会を、まさに長崎と会津をつなぐ絆といえる長崎出身の近代統計学の祖・杉亨一の玄孫で、会津出身の「バルトの楽園」の松江豊寿の弟で南洋の砂糖王・松江春次のお孫さんの松宮伊佐子様と、

ご主人の松宮克昌様に「長崎と会津をつなぐ私の家族たち」「近代統計学の祖・杉亨一伝」と題した講演をいたしました。その後、「長崎の中の会津と幕末・明治の長崎の隠れを偉人伝さるく」を行い松宮様御夫妻とともに杉亨二の胸像や日下義雄の説明板や西郷四郎の墓所をまわり、当支部恒例の日下夫人の墓所の清掃と献花を行いました。

# 東京支部だより

## 東京支部長 渡部麗

2015～2016年にかけて、白虎隊ピンポイントの活動はなかつたのですが、会津松平家14代の殿様とレキシズルにおいて幕末会津藩の歴史イベントを催してきました。

8月には、白虎隊とは切つても切れない関係であった、会津藩の至宝、山川大蔵についてプレゼンテーション。藩校日新館の秀才でありながら、朱子学ではなく、陽明学に傾斜するなど、会津の粹にとどまらない男でしたが、ヨーロッパ諸国を周り、文武両道のその才は白虎隊士にとつて憧れの的だつたと思います。

ぜひ皆さんのお知恵も拝借させてください。よろしくお願ひ致します。



日下(義雄)夫人墓所の清掃と献花(長崎支部)

# 本部だより

## 1.会員

2015年度の新入会員は6名でした。2016年3月末現在、名簿登録会員数は143名（昨年比+3名）となった。内訳は特別会員25（0）、一般105（-1）、賛助4（0）、休会4（+3）、物故5（+1）名である。地域別では会津40、東京37、下関18、京都16、長崎9、仙台9、静岡4、福岡2、その他8名である。なお、会員名簿上、会費3年未納者は休会と表示した。また、4年以上会費未納者は退会とし、自己申請の退会者とともに名簿から削除した。

## 2.活動

主な活動実績は表に示すとおりです。青字は、本文に記事が紹介されています。

年月日	主な活動(予告を含む)
2016年4月24日	春の飯盛山墓前祭参加(会津支部)
2016年4月16日	会報第6号発行
2016年4月2日	年次総会(インターネットで)
2015年10月17日	会津湊地区地域活性化協議会講演「白虎隊はいかに戦ったか」
2015年10月3日	千葉千心会10月例会講演「白虎隊、そして幕末、明治初期の史実の重み」
2015年9月22日	白虎隊士生家跡石碑除幕並びに白虎隊出陣劇の奉納
2015年9月24日	秋の飯盛山墓前祭参加
2015年9月23日	会津藩公行列および史跡めぐり
2015年8月29日	戊辰戦争白河口の戦い記念碑建立除幕式参加
2015年8月7日	山口県美祢市青嶺高校で「白虎隊が残したもの」を招待講演
2015年7月1日	平成27年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)に白虎隊士生家跡整備事業を申請し採択される。
2015年4月24日	春の飯盛山墓前祭参加(会津支部)
2015年4月16日	会報第5号発行
2015年4月2日	年次総会(インターネットで)
2015年4月24日(予定)	春の飯盛山墓前祭参加(会津支部)

## 3.決算報告

白虎隊の会		貸借対照表	単位(円)	損益計算書		単位(円)
資産の部		負債の部		収入の部	支出の部	
現金及び預金	636,463	未払金	110,730	会 費	326,000	説明版等事業費
	450,000	負債の部合計	110,730	寄 付	206,000	会誌発行
		前期繰越残高	613,537	書籍代	177,594	広告費
		今期剰余金	362,196	名刺代	15,200	その他
		次期繰越残高	975,733		450,000	
資産の部合計	1,086,463	負債純資産合計	1,086,463			今期剰余金
会計監査	平成28年3月31日現在			合 計	1,174,794	362,196
						1,174,794

## 4.会計監査

平成27年度の決算報告書及び預貯金記録を照合精査した結果、いずれも誤りなく執行されていることを認めましたので、ここに報告いたします。

平成28年3月31日 会計監査役 緑川 正和 印

## 5.2016年度の計画

新規会員獲得目標10名、総事業費は60万円を予定。

**預金が少くなり、書籍販売も落ちているので、会費納入と寄付をお願いいたします。**

- 1.会津若松市内に「白虎隊士生家跡」碑2基を設置。（助成事業を申請）
- 2.美祢市櫛崎屋敷跡に「恩愛の碑」を建立する下関支部を支援。
- 3.仙台支部の立ち上げについて検討。

## 白虎隊の会 設立趣意書

会津白虎隊は1868年（慶応4年）3月1日に会津藩の最年少軍隊として組織され、戊辰戦争で皇国への義を掲げて、新政府軍と戦いました。

数え年16～17歳で編成された白虎隊は総勢約300名で、うち約30名が戦死し、16名が飯盛山で自刃しました。

彼らはこの戦いで「会津の教え」を健気にも最後まで守り通しました。

「会津の教え」とは『ならぬことはならぬ』に象徴される生活の掟でした。

いつ、いかなる場面でも『義』をもって生きることが彼らの行動規範でした。

生き残った白虎隊士の多くは、国賊の汚名を着せられ、流罪となり、死んでいった戦友たちへの忸怩たる思いを抱きながら、艱難辛苦に耐えました。

一方、会津白虎隊の壮烈果敢な行動は「皇國への犠牲」としてモデル化され、戦争に利用されました。

あれから144年、会津白虎隊士の子孫は4代目から5代目を迎え、情報は散逸し、史実は風化しつつあります。

しかし、白虎隊物語は、日本人の心の中に生かし続ける必要があるのではないかと思うか？

私たちは白虎隊の『義』を現代および将来に伝え、広めることを目的として、【白虎隊の会】を設立しました。

この会は、1.調査・研究、2.交流、3.事業企画の3つを中心に会員自らの活動を原動力として推進いたします。本会の運営は会則に示すとおりです。入会資格は問いませんので、趣旨に賛同いただける方の入会を切にお待ちいたします。

2010年4月1日

【白虎隊の会】設立発起人一同  
文責 発起人代表 飯沼一元

### 《編集後記》

東日本大震災から5年、津波被災地は少しづつではあるが、復興に向かっているようです。しかし、原発被災地福島は、爆発地から100km離れた会津を含めて放射能汚染と風評被害に苦しんでいます。外国人観光客はこの5年間の全国平均で35%増えましたが、福島は50%減少しました。飯盛山の修学旅行客は回復してきたとはいえ、震災前には戻らない。原発被災は津波と比較すると陰湿です。

福島がこのような犠牲の対象となったのは、幕末の歴史と関係があるようだ。

148年前の戊辰戦争で散った白虎隊士に学ぶものがあると信じ、白虎隊の会を立ち上げて6年。多くの出会いがあり、多くの学びがある。この輪を一人でも多くの人に広げたい。“義”に生きた白虎隊士を現代の若者に伝えたい。

会誌第6号を皆さん協力により、発行することができました。継続は力なりと自分を鼓舞しながら、7年目に向かいます。

2016年3月 飯沼記

### ♪白虎隊の会について♪

★入会は自由です。入会金は無料・年会費は三千円です。

5年分一括納入へのご協力をお願いしています。

郵便振込先加入者名：白虎隊の会 口座記号番号00100-1-616556

【白虎隊の会】事務局

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘2-24-14 TEL:03-3429-6652 FAX:03-3429-6654

発行責任者 事務局長 飯沼一元

ホームページ：<http://byakko1868.web.fc2.com/>

検索